

県中教育

随想

学校で学ぶことの意義

県中教育事務所長 芦沢 康



毎朝、小学校の通学路を歩き通勤している。四月、保護者に手を引かれ歩いていた一年生が、今では一人で元気に登校できるようになっている。一通行人としてうれしく思う。

足取り軽く登校できることを、皆願っている。先生方も、保護者の方も、お爺ちゃんお婆ちゃんも、そして子ども自身も。

今日もいい日でありますように。今日も友達と仲良くできますように。今日も楽しく過ごせますように。願いは皆同じ。しかし、ある時から歯車が狂う。

令和五年度の不登校児童生徒数は、全国で約三十五万人。福島県公立学校で約四三〇〇人。県中域内でも一〇〇〇人を超える。いずれも、この五年で約二倍に増えている。要因や背景は多様化、複合化している。併せて、「無理に学校に

など行かなくてよい」「学校以外の選択肢もある」という考えも耳にするようになった。不登校児童生徒の増加は、学校の在り方が問われていると言われる。学校に来る意義を、学校で学ぶ意義を全職員で確認したい。そして、学校で過ごす時間の中で最も長い「授業」の改善を進めたい。

生徒指導提要では、「授業は全ての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場」であるとし、生徒指導の実践上の視点である、次の四点を意識した授業づくりを推奨して

編集・発行
福島県教育庁
県中教育事務所

発行責任者
芦沢 康

編集協力
県中市町村教委連各支会
県中各地区小中学校長会協議会

いる。

- ・自己存在感の感受
- ・共感的な人間関係の育成
- ・自己決定の場の提供

・安全・安心な風土の醸成
つまり、教科のねらいを達成することに加え、授業の中で、一人一人を大切にし、その存在を認め、励まし、称賛していこうということだ。いわゆる教科指導と生徒指導の一体化である。

今、各校を訪問し、短時間ではあるが授業を参観させていただいている。

初任者であろうが、ベテランであろうが、誰にも改善の余地はある。彼の日本を代表する世界的企業ですら常にカイゼンに取り組んでいる。我々は、まだまだ子ども達を生き生きとさせられる。

「この教室で、みんなと学ぶのが楽しい」「みんなと考えたから、学びが豊かになった」。そう子ども達に感じてもらえる学級と授業を目指したい。

故郷を愛し、笑顔あふれるひらたの教育

平田村教育委員会教育長 富岡 信



「ジュピアランドひらた芝桜まつり」では、約二十五万株もの芝桜が咲き誇りました。

夜がおすすめで、ライトアップされたピンクや赤の幻想的な光景は感動です。幸せな気持ちになります。恋人たちや若い夫婦もシニア夫婦も男女で訪れた人たちは、帰るときに手をつないで帰っていきま

す。あじさいの最多品種数でギネスに認定された「世界のあじさい・ゆりまつり」も壮観です。恋人たちの聖地になるよう趣向を凝らして開催しますので、ぜひ平田村にお越しください。

平田村は、自然豊かで農業や林業が盛んです。子どもたちは恵まれた環境の中で、純朴でやさしく、伸び伸びと育っています。

グローバル化が進んでいる社会において、国内や世界に羽ばたき活躍する人材の育成が求められている一方で、村

から離れていく若者が多く、少子化が進み、児童生徒数の減少が大きな課題です。

そこで、地域と積極的に関わり、誇りをもち、村の発展に貢献する人材の育成が重要であると考える、「ふるさと教育」に力を入れています。

「ひらたの名人・達人」を招聘し、発達段階に応じた見学学習や体験学習。例えば、村特産の自然薯や稲作の体験。調べて、植えて、予想して、観察して、収穫して、調理して。アウトプットが大切なので、発表に力を入れます。

村少年の主張大会では、「道の駅ひらた」で販売している特産のアスパラガスやハバネロを使ったソフトクリームに加えて、自然薯を使ってトルコアイスみたいな伸びるアイスはどうかという意見や、村の木である「あかまつ」を使って地域産業を盛り立てるなどの発表がありました。

子どもたちの笑顔と未来のために、ふるさと教育を基盤に据え、自ら考えて行動するたくましい人材の育成を目指し、地域と連携しながら教育の充実に努めていきます。

子供の読書活動優秀実践校

「文部科学大臣表彰」を受けて

郡山市立桜小学校

本校は、平成十八年にも同賞をいただきました。このことは、本校における読書活動への取組が一時的なものではなく、工夫改善を加えながら多年にわたって継続的に行われてきたことを意味すると理解しています。ここでは、本校の取組の一端を紹介いたします。

①学習・情報センターとしての機能と温かみを両立させた環境

図書室は二百一平方メートル（約百二十一畳分）あり、読書スペースと学習スペースに分けて有効活用しています。畳コーナーやベンチ、テーブルなど、さまざまな居場所があり、その時の必要性にに応じた使い方ができます。学習スペースでは、一クラスの児童が余裕を持ってテーブルで学習することができ、畳コーナーでは、大型絵本などを広げて友達と楽しく読む様子も見られます。もちろん、蔵書が充実しており、市からの配当予

算を有効利用しての新しい本も多く、司書の先生に相談したり調べたりする環境も整備されています。入口は、アミューズメント感のある飾り付けがされ、図書室に入る時にわくわく感を喚起する工夫をしています。扉を開けると「ようこそ図書室へ！」という言葉で出迎え、帰るときには「また来てね★」という言葉で送り出す装飾もあり、温かみのある図書室になっています。

②図書室に足を運ばせるための工夫

毎年、司書によるオリエンテーションを行った後に、図書の貸し出しが始まります。図書委員会による「読み聞かせ」や「読書まつり」のほか、図書室主催のイベントである各学年ごとに選定した三十冊を読んで感想を書く「読書マラソン」、図鑑や百科事典を活用した「夢っ子クイズ」、先生や友達に送る「読書郵便」、一度も読んだことが無い絵本をヒントをもとに探し当てる

「この本ななんだ？」の「絵本探し」、「ボランティアの方々による読み聞かせ」など。これら様々なイベントの実施により、図書室に来ることが日常の一部になるようなきつかけづくりを行っています。

③学校のシステムづくり

校内放送による軽やかな音楽が先導し、週に三回「朝の読書タイム」を行っています。アプリを活用した図書室・学習室の予約は、教室等にいなからタイパよく行うことができ、先生方にも好評です。



本が大好きな子どもを育てるために、これからも読書環境を整えていきたいと思っています。



食育推進優秀校表彰「最優秀賞」を受けて

三春町立中郷小学校

本校では、教育目標に掲げている「輝く子ども」を目指す食育を推進しています。その取組を紹介いたします。

①教科等における食に関する指導

三春町で栽培が盛んであることから、ブルーベリー園やピーマン選果場を見学させていただき、見学後は、給食で味わうことで、流通、消費の流れを学んだり、郷土愛を育てたりすることにつながっています。



また、地域の方のご協力のもと、田植え、稲刈り、餅つきの体験をしました。

②給食の時間における食に関する指導

栄養教諭が、月の食育目標に沿った内容で、ZOOMで配信をしています。この様子をホームページにも掲載することで、家庭で食について話題になるよう工夫しています。

③自分手帳の活用

年間計画を全職員で確認し、月一回記入する日を設けています。一・三年生は、「元気チェック表」を作成し活用しています。

④お弁当の日にもむけた取組

給食の時間におにぎり作りやお弁当箱にごはんとおかずを詰める練習を行っています。友達と行うことでよりよいやり方を見つけ、自信をもってお弁当作りに取り組むことができます。



⑤三春病院食育企画

五・六年生を対象に、三春病院の管理栄養士さんと学習を行っています。この取組は「ふくしまっ子ごはんコンテスト」に生かしています。

最後に

今後も、食を通して心と体が成長し、「輝く子ども」を目指していただけるように全職員で食育実践を継続していきます。

初任者紹介 ～三か月を振り返って～

鏡石町立第一小学校

教諭 清水 北斗



四月に鏡石町立第一小学校に着任し、教員として新たな生活が始まりました。元氣いっぱいの子どもたちと出会ってから早くも三か月が経とうとしています。緊張と不安を抱いていた環境にも慣れ、子どもたちの成長を手助けするため、試行錯誤を繰り返しています。

この三か月を振り返って、教師は日々の授業をこなすだけでなく、自身の活動を省察することが非常に重要だと学びました。だからこそ、毎日欠かさずに教材研究を行って児童の実態に沿った授業を展開し、活動の反省と改善をして、次の授業に活かすという一連の流れを徹底していきたいと考えています。

日々、悩みが尽きることはありませんが、関わってくださる先生方や子どもたちに感謝して成長し続けていきたいと思っています。教師として誇りを持ち、地域の未来を担う子どもたちに寄り添うことを忘れずに一日でも早く自立できるように自己研鑽を積んでいきます。

田村市立都路中学校

教諭 櫻井 陸人



四月に田村市立都路中学校に着任し、早くも三か月が経ちました。初めての教員生活、初めての学級担任など希望に満ち溢れていたとともに、様々な課題に対して試行錯誤を繰り返す日々になりました。

本校は全校生徒二十三名の小規模校で、生徒一人一人と関わる時間を十分に確保できる環境にあります。その強みを生かして、教員一丸となって、生徒一人一人のよさや可能性を伸ばす指導・支援を心がけています。私もチームの一員として、先輩の先生方からの助言を真摯に受け止め指導の工夫・改善に努めています。私の指導が生徒の成長に関わってくことを常に意識して、生徒一人一人と積極的に関わっていききたいと思っています。

教員としての知識も経験も浅い私ですが、生徒や保護者、地域の方々からは一人の教員として見られています。教員としての自覚と責任をもって日々の職務を遂行し、信頼される教員になれるように努めていきます。

古殿町立古殿小学校

養護教諭 真船 佑果



不安や期待を抱えながら、古殿町立古殿小学校に着任し、養護教諭人生をスタートしてから早くも三か月が経ちました。一日一日があつという間に過ぎてしまうほど、充実した日々を送っています。

この三か月は、とにかく毎日が目まぐるしく過ぎ、目の前のことに対応することで一杯でした。救急処置の一つをとっても、子どもにとって自分の行った処置が適切であったのか等、悩む瞬間がたくさんありました。一日の保健室の来室記録を確認し、改善できることがないか内省しています。まだ上手くいかないことも多いですが、子どもが笑顔で教室に戻っていく姿を見ると、幸せな気持ちでいっぱいになります。この瞬間が仕事をしていたやりがいを感じることができる瞬間の一つです。

これからも、常に子どもにとつての最善を模索し、養護教諭としてレベルアップしていけるよう日々励んでいきたいと思っています。

福島県立須賀川桐陽高等学校

教諭 小森 成一郎



戦々恐々の気持ちで、顔合わせのために会議室に入った教員生活初日から三か月が経過しました。ここまでの心情の変化を、ごく簡潔にはありますが自身の備忘録のためにも残したいと思っています。

初日の「戦々恐々」の正体は、そもそも先月まで大学生だった自分に、いきなり教員の仕事が始まるのだろうかという不安な気持ちでした。しかし、実際にここまで働く間に、勤務時間の中で、「教員になって良かったな」と感じている時間の割合が大きいことに気付きました。授業をしているとき、生徒と話しているときなど、さまざまな場面で、喜びややりがいを感じているというのが、現状の自分です。

現在は、大ベテランの先生方に様々なことを教わりながら、教員の初心者マークが外れるように日々勇往邁進しております。「人は熱しやすく冷めやすい」という言葉がありますが、現在の気炎万丈な気持ちは、この先何年経っても忘れずにいたく思います。

福島県立郡山支援学校

教諭 靱山 千笑実



郡山支援学校に着任し、気が付けば三か月が過ぎようとしています。この三か月は毎日子どもたちの元氣な姿に癒され、成長に驚かされながら充実した日々を送っています。分らないことや不安なことがたくさんありましたが、その都度周りの先生方が優しく丁寧に教えてくださいました。そのおかげでたくさんの知識や学びが得られ、安心して働くことができています。

学校では日々の指導・支援を通して、「どうしたら子どもたちができるようにするか」を考え実践しています。一方で、子どもたちが自身が「こうしたらできるかもしれない」と思い、課題に取り組むこともあります。その懸命な姿から学ぶこともたくさんあり、毎日刺激的で面白いです。

常に子どもたちの今と将来を考えながら指導・支援を行っていくとともに、何事にも子どもがファーストな教員でいられるようこれからも学び続けていきます。

県中教育事務所よりお知らせ

総務社会教育課 社会教育担当より

読書活動支援者育成事業 研修会について

本研修は、学校や図書館など地域で活躍できる読書ボランティア等の専門的な知識・技能の向上を目的とし、六月十二日に開催しました。

実践発表では、「令和七年度子供の読書活動優秀実践団体文部科学大臣表彰」を受賞された古殿町の『読み聞かせ会「あのね」から「古殿まち物語紙芝居化プロジェクト」の紹介と自作紙芝居の実演をしていただきました。

講話では、「はしれ ディーゼルきかんしゃデーデ」の作者である童話作家のすとうあさえ氏から、この絵本の制作経緯や震災伝承に対するご自身の思いについて、切々とお話いただきました。

講話・演習では、絵本専門士の田中雄人氏から、絵本の魅力と読み聞かせをする時のコツなどについて、実演や演習を通して楽しく紹介していただきました。今後も、読書活動を支援する人材の育成と資質向上に努めていきます。



地域連携担当教職員等 研修会について

「令和六年度コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に係る文部科学大臣表彰」を受賞された常葉幼小中学校運営協議会の実践発表と一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事の廣瀬隆人氏を講師として、六月二十六日にオンラインで開催しました。

実践発表では、学校と地域の信頼関係を構築した熟議や双方の交流に繋がった地域学校協働活動の具体的な取組についてお話いただきました。

講演では、「良い学校は良い地域にある」ということを柱に、学校を核とした地域づくりについてお話していただきました。また、各々の立場で抱えている課題や疑問について、他地区の実例や廣瀬氏の経験をもとに簡潔に回答いただき、今後の実践的なスキルアップに繋がりました。

今後も、このような実践力が身に付けられる研修会を展開し、よりよい連携・協働を推進していきます。



学校教育課 管理担当より

「信頼される学校」を目指して

「教育は、教職員や学校に対する信頼の上に成り立っています。」これは本年三月に改訂された「信頼される学校づくりを職場の力で」の中で示されていることばです。

各校では「不祥事根絶プロジェクト」に基づき、市町村教育委員会と一体となって不祥事ゼロに取り組んでいます。所長訪問等で学校を訪問し、先生方との対話をおして感じるの、教育の専門職としての誇りを持つ子どもたちに接する姿、風通しのよい職場づくりのための良質な同僚性の構築、やりがいと働き方改革の両立などです。各校の実態に応じ、教職員一人一人が主体的に取り組まれていることを目の当たりにすることができました。

先にご紹介した「信頼される学校づくりを職場の力で」は次のように続きます。「私たち一人一人が、真摯に教育に向き合い、専門的知識と教育的愛情により、未来を担う子供たちを教え育み、誇りを持つて不断の努力をする中で、信頼は築くことができるのです。」

職場の力が一段と発揮され、一員であることへの誇りが高まる職場づくりのため、引き続き実効性のある取組をお願いいたします。

学校教育課 指導担当より

イノベーション人材育成 推進教員活用事業について

今年度二年目となる本事業は、理数教育の授業改善と各教科等横断的な学習の推進を通して、復興を担う子どもたちに必要な力の育成を図ることを目的としています。

昨年度、算数・数学科の研修会では、解決する問題を発見する過程を工夫した授業や他者と協働して得られた結果を吟味する過程を重視した授業を公開しました。

また、理科の研修会では、STEAM教育の視点を取り入れ、教科等横断的な学習となるよう、単元を工夫した授業を公開しました。

いずれの授業も、見いだした問題に対して、児童生徒が今までの学びを生かしながら主体的に取り組む姿が見られた授業でした。

今年度も県中域内では、算数・数学科は四回、理科は三回、研修会を開催する予定です。算数・数学、理科を担当されている先生に限らず、より多くの先生方に参加いただき、児童生徒が主体の授業づくりについて学ぶ機会にしていただきたいと思います。

相談・研修支援について

地域支援体制整備事業では、特別支援教育に係る地域の支援体制の整備や特別な支援を必要とする子どもへの指導・支援の充実を図るため、相談及び研修支援を実施しています。

【相談支援】

子どもの学習面、行動面、社会性など、発達に関する心配や教育上の課題について、専門の相談員が個別に相談に応じます。対象は、幼稚園、小・中学校、高等学校等に在籍する幼児・児童・生徒とその保護者、担当教員等になります。どうぞお気軽に御相談ください。

【研修支援】

特別支援教育に関する専門性向上を目的とした研修を行います。具体的な指導方法ははじめ、個別の教育支援計画の作成や教育課程等の校内の支援体制整備に係るアドバイザー等も行っておりま

す。先生方や地域の支援者の方々が共に学び、支援の質を高めていける場を提供できるように努めます。

詳細につきましては、当事務所までお問い合わせください。

相談・研修支援
依頼様式

